

2020-2021 年度クラブ運営方針

有田 2000 ロータリークラブ
会長 川島信治

世界的な新型コロナウイルスの大流行の中で、当クラブの 2020-2021 年度が始まろうとしています。

5月現在、今まで経験したことのない、そしてどこに潜んでいるか分からない未知なるウイルスとの戦いの最中です。

5月半ば現在、緊急事態宣言が一部解除されたとは言え、今後更に厳しい第2波、第3波が到来すると言われています。

また、自分と自分の大切な人を守るために行った、2ヶ月以上に及ぶ自粛生活により経済活動も甚大な悪影響を受けて会社の倒産や閉店を余儀なくされた方もおられます。

当クラブに於いても 2020年4月15日から5月末までやむを得ず例会を休会にしました。また2020-2021年度のための PETS(会長エレクト研修セミナー)の開催も残念ながら見送られました。

このような厳しい情勢下ではありますが、本年度クラブ会長を務めさせていただきます。

今回で二度目の会長拝命となりますが「一生懸命で楽しいロータリー」を目指して頑張りますので皆さまご協力とご指導のほどよろしくお願いいたします。

2020-2021年度 ホルガー・クナーク RI 会長の講演(2020年1月20日)より。

ご存じの通り、ロータリーとは、クラブに入会するというだけではなく、無限の機会への招待です。ポリオ根絶のように大規模で歴史的なプロジェクトから、地域社会でのささやかなプロジェクトや一本の植樹まで、奉仕する機会への扉を開いてくれます。

私たちのあらゆる活動が、どこかで、だれかのために機会の扉を開いています。

従って、私たちの年度のテーマは、「ロータリーは機会の扉を開く」です。(一部抜粋)

私たちのような小さなクラブが過去に行ってきた、地域に密着したささやかな奉仕活動にも誇りと勇気が湧く気持ちがあります。

もし私たちがロータリークラブに入会していなかったとしたら、はたしてこの様な奉仕の機会を得られたでしょうか。またこの様な素晴らしい友との出会いがあったでしょうか。ロータリーの会員で居られる全ての幸運に感謝してロータリー活動を楽しみたいと思います。

2020-2021年度 藤井秀香国際ロータリー第2640地区ガバナーの「「ロータリーと共に寄り添い奉仕の扉を開こう」お蔭様に感謝し、救いを求める声に寄り添い、ロータリーと共に奉仕しよう。」のローガンの下、当クラブに於いても、会員である個人の奉仕と共に、その集合体であるクラブとしての奉仕活動により積極的に取り組んで行きたいと思います。そして、奉仕活動を通じて育んだ友情で会員相互の信頼関係を築きたいと思います。

2020－2021 年度のクラブスローガン。

「一生懸命で楽しいロータリー」

2020－2021 年度のクラブの目標。

1. 会員増強と退会防止。

クラブがその活力を増進させ続けるために、会員増強は不可欠な条件です。まだ見ぬ新入会員との出会いはクラブをパワーアップさせてくれる事でしょう。

会員増強に関する情報の収集、増強に関するセミナーの定期開催を行います。

また、特に入会間もない会員に対する声掛けや、様々なフォローを心掛け退会を予防します。

本年度はガバナーの活動方針にも示されている様に、特に女性会員入会に向けて会員増強委員会には更なる活動の強化をお願いします。

2. 例会や奉仕活動への出席率向上。

例会の出席率は年間を通じてメイクアップを認められますが、魅力ある卓話者の招聘等や楽しい例会プログラムを工夫し、当クラブの例会での出席を重視して例会を活気あるものとします。

3. 社会奉仕活動の充実。

以前から実施している、地域の小学校への図書寄贈、藤並駅前の桜の苗木植樹、白木海岸清掃活動、ふれあいキャンプへの参加、有田川駅伝へのサポート、わんぱく相撲有田場所への協賛等を通して地域の方々との絆を大切に活動します。加えて、他にも時々のニーズに合った奉仕活動を模索して取り組んでいきます。

4. 親睦活動への参加。

会員が本当にロータリーに入って良かったと思える、真の友情を深めるために会員相互の交流は必須であると考えます。恒例の一泊例会の実施や奉仕の後の懇親会等、新型コロナウイルスの影響で厳しい局面も出てくるかもしれませんが、委員会を中心に工夫して取り組んで頂きます。

当たり前だと思ってきた事が当たり前では無くなり、まだまだ先の見えない新型コロナウイルスとの厳しい戦いですが、一人一人の意識を高めて打ち勝っていくようにしましょう。新型コロナウイルス時代に適応したロータリー活動を模索しながら、会員の皆様と共にロータリー活動を楽しみたいと思います。一年間どうぞよろしく願いいたします。

2020-2021年度 各委員会活動計画

会 場 監 督

SAA委員長 永石 睦巳
副SAA 梅本 茂喜
前 任
中屋 喜臣

川島会長の「一生懸命で楽しいロータリー」というスローガンを実現すべく、例会運営では楽しさを演出しつつ合理的な進行を心掛けます。

副 会 長

副会長 辻本 正成

会長の運営方針に基づき、幹事と共にスムーズなクラブ運営が出来るように川島会長をサポートします。

1・クラブ奉仕委員会

委員長 大浦 輝彦

川島会長の運営方針のもと、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・委員会活動がクラブにとって効果的なものとなる様、管理運営を行って行きます。

(a)会員担当委員会

委員長 寺村 公博
副委員長 上野 祥弘

会長の運営方針に従い活動していきます。

各種活動への皆様の積極的な参加を促すよう努めます。

- ①無断欠席をなくす。欠席する場合、連絡の周知徹底をお願いします。
- ②例会出席率を高めること
- ③会員の増強。

(b)会員増強委員会

委員長 上野 祥弘
副委員長 寺村 公博

会長の運営方針に従い活動致します。新入会員の入会促進に努力します。

(c)週報委員会

委員長 樋口 明
副委員長 下林 善信

例会の内容をわかりやすく編集するとともに、各委員会と連携し、活動等の情報発信に努めると共に、「ロータリーの友」の記事を紹介し、ロータリーアン精神である「社会奉仕の心」を再認識、周知に努めます。

(d)例会活動委員会

◇出席

委員長 梅本 茂喜
副委員長 平松 一彦

本年度のクラブ運営方針でのクラブの目標にも挙げられています様に、クラブの例会、各種活動などに積極的に参加頂けるように尽力いたします。

◇プログラム

委員長 辻本 正成
副委員長 南 良暢

会長の運営方針に基づき、理事会、副委員長と共に例会プログラムを企画することにより、より魅力ある例会を目指します。

また、地区委員会卓話・外部卓話・会員卓話等の調整に努めます。

(e)会員親睦委員会

委員長 芝 毅
副委員長 辻本 正成
森 誠

クラブ運営方針に基づき 親睦活動を行います。誕生祝等の発表を実施を行います。

その他 本年度運営方針により派生する活動への参加、協力。会員相互の親睦を深め、楽しいクラブとなるよう努めます。

2・職業奉仕委員会

委員長 南 良暢
副委員長 佐原 伸哉

ロータリー活動において原点とも言える職業奉仕を基本とした上で、川島会長のもと、奉仕活動全般の

原動力となるように尽力して参ります。

四つのテストは、1932年にシカゴロータリークラブのハーバート J. テイラーさんが破産寸前の会社再建のために従業員に向けに作成した理論指針であり、1943年に国際ロータリーの職業奉仕プログラムとして四つのテストが採択されました。

四つのテストは日本語訳の影響から日本人に馴染めない側面も一部では叫ばれております。そのため訳し直して表現させていただきます。

1. 間違っていないかどうか（正確な情報提供）
2. 不公平にならないかどうか（公平・公正）
3. 相手の信頼を裏切らないかどうか（信用・信頼）
4. お客さんをはじめとする関係者すべてにいいことかどうか（顧客第一・社会貢献）

これら四つのテストはロータリアンの日常生活における行動指針としたり、他人に強制するものではなく、あくまでも職業奉仕に限定された指針とします。

四つのテストは基本指針とした職業奉仕活動のあり方を、自身も学びながら会員相互の活力となるような奉仕活動を見出していきたいと思えます。

3・社会奉仕委員会

委員長 中屋 喜臣
副委員長 梅本 茂喜

クラブ運営に沿って、有田地域社会に役立つ社会奉仕活動の計画・実践を行います。

4・青少年委員会

委員長 吉水 志朗
副委員長 大浦 輝彦

未曾有の少子化の中、次代を担う世代をどう支援していくのか、各プログラムの存在意義を中心に議論していきたいと思えます。そして次世代を担う青少年が社会のリーダーとなり、地域に貢献できる人材育成の事業をサポートしていきます。

ふれあいキャンプの参加、有田川駅伝のサポート、わんぱく相撲への協賛などの青少年奉仕事業行っています。

5・国際奉仕委員会

委員長 前 任
副委員長 樋口 明

2019年の末に「原因不明のウイルス性肺炎」として最初の症例が確認されて以降、急速に世界各地に感染が拡大し、それまでの日常生活が一変しました。この影響はロータリーにも波及し、ホノルル世界大会はWEB上のバーチャルで実施され、各地のPETSや地区研修協議会も相次いでWEBでのリモート会議等

の非接触型会議に変更されました。また、各クラブでは例会の取消が続き、最近では E クラブと同様に WEB 上で例会を行うクラブも散見されます。

国際ロータリーでは、感染の拡大に十分注意を払う事を推奨しており、本年度の国際奉仕活動に関しては、従来型の奉仕活動の方法を見つめ直す時期と感じております。

本年度の委員会活動は新しい国際奉仕活動の手法を探求したいと考えます。合わせて、ロータリー財団や米山奨学会への寄付増進を図りたいと思います。

(a)ロータリー財団委員会

委員長 佐原 伸哉

副委員長 芝 毅

ロータリー財団について知識を高めると共に、教育への支援を高め資金推進に取り組む活動を考えていきたいと思えます。

(b)米山奨学会委員会

委員長 下林 善信

副委員長 中屋 喜臣

米山記念奨学会の在り方について理解を深め、普通寄付の納付のみならず、特別寄付への協力を図りたく思っています。

また、10月の米山月間を中心にPR活動を行い、会員に理解を深めていきたい。